



鶴岡市議会議員〔無会派・産業建設常任委員会〕

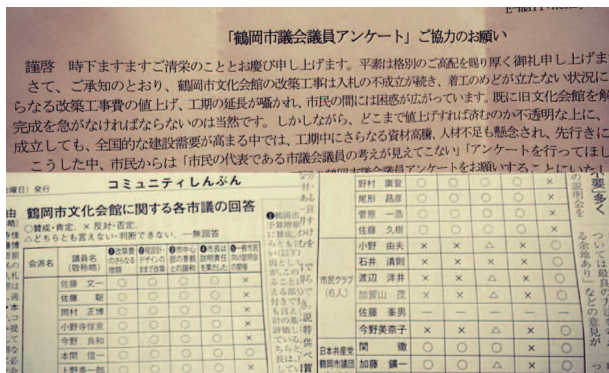
田中ひろし 市政報告

2014
JUL.

＜連絡先＞ 事務所 〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町 13-35 メール：officefon@gmail.com
TEL 0235-22-0068 FAX 0235-22-0098
議会事務局 〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町 9-25 鶴岡市役所 2階
TEL 0235-25-2111 FAX 0235-24-9071

7月18日付「コミュニティしんぶん」に、新文化会館についての鶴岡市議アンケート結果が掲載されています。（コミュニティしんぶんHPに全文掲載されています！）

※写真の上半分が私のもとに送られてきたアンケート用紙、下部が紙面の一部です。



更なる増額への賛否、市民説明会開催への賛否などなど、会派による違いや各議員のコメントが、紙面に掲載されています。私が提出した回答は下記の通りです。

■問1 更なる増額に…反対。あくまでも40億円の予定で設計された建物。資機材および人件費の高騰分は、詳細を開示した上でなら、ある程度やむを得ないと思う。しかし2倍もの金額を費やして建てることは、将来に大きな禍根を残す。

■問2 現行の設計のままで進めることに…条件付きで賛成。ただし設計者と市役所だけでなく、第三者によるコンストラクション・マネジメントを導入して、積極的に建設費用の低減と工期短縮に努めることが条件。

【コミ新聞】文化会館に関する市議アンケート

■問3 周囲の景観と…新しい調和が期待できる。景観との調和だけでなく、妹島氏ならではの「公園のような建築」によって、これまで閉鎖的だった文化会館が街とつながった交流拠点に変わる可能性を評価している。

■問4 入札不調と建設費用増額について、市長は説明責任を…果たしていない。設計者選定時、設計業務委託時の条件や見通しが、いつどのように狂ってきたのか、増額の根拠を説明すべき。また、スーパーゼネコンを参画させるのかどうかは建設費用にも影響が大きいと思われるので、早めの説明を！

■問5 市民向け説明会の開催に…賛成。市民への説明について「芸術文化関係者と学校関係者への説明」「市ホームページによる情報公開」で事足りりとする市当局の姿勢には、《すべての市民のための文化会館》という視点が欠落している。

【今号目次】

- ・コミ新聞市議アンケート
- ・「文化会館ポータルサイト」
- ・文化会館に関する市長の発言
- ・平成26年6月定例会一般質問報告
- ・集团的自衛権と解釈改憲
- ・《チャレンジデー》見事勝利！

※次ページでは、2014/5/19に鶴岡市役所ホームページの【文化会館改築ポータルサイト】に掲載された「鶴岡市文化会館の改築工事について」という文章と、2014/6/27本会議開会前の市長の発言と、新政クラブ所属議員の質問への答弁を合わせて掲載します。（2～3頁）

■【文化会館改築ポータルサイト】 鶴岡市文化会館の改築工事について

2014/5/19に鶴岡市役所【文化会館改築ポータルサイト】に掲載された「鶴岡市文化会館の改築工事について」という文章を転載。※この時点では「本体工事の完成時期（H28年8月）に変更の予定はありません。」と明記されていました。

***（ここから転載）

鶴岡市文化会館整備事業の進捗状況について、以下のとおりお知らせいたします。

■入札の経過について

1月30日に本体改築工事と電気設備工事、空調設備機械設備工事、給排水衛生機械設備工事の4工事について入札の公告を行いました。2月14日を期限に入札参加の申請を受付けましたが、空調機械設備工事については、1共同企業体のみの申請であり、適正な競争の確保の観点から、2月20日に入札執行を中止し、密接に関連する給排水衛生機械設備工事についても、翌21日に中止としました。また、改築工事については、3月6日に入札を実施したところ、入札参加条件を満たす3共同企業体全てが辞退したことから不調となり、電気設備工事についても関連する工事であることから、翌日に入札執行を中止としました。

■入札不調を受けての対応について

入札が不調になった主な要因としては、大規模な地下構造や曲面を多く持つ形状の建物であり、技術的に特殊な工法による施工が必要であることや、資機材の調達の間でも地元企業のみによる価格交渉等の難しさ、また、約2年半という長期にわたる工事であることから、工事途中の労務費のアップや資材等の仕入れ価格の変動などの不確定要素が多いことが懸念されたのではないかと推察されます。

このことを踏まえ、工事費積算の点検・見直しを行った結果、当初より約11%、6億円近い工事費の増額が必要となったことから、補正予算案を4月25日の臨時議会に提案し可決されました。

■建設費の増額について

新文化会館の本体工事費は、整備基本計画では約40億円でしたが、昨年末の実設計では約

53億円となり、今回6億円の増額により、総額約59億円になります。財源としては、昨年度に交付された「地域の元気臨時交付金」を積み立てた公共施設整備基金約12億円を充当するほか、合併特例債を充てる予定です。

■増額の要因について

- 1、公共工事設計労務単価が、平成25年度と平成26年度の比較で、山形県では平均約8%上昇したこと
- 2、建設資機材の単価が、今年の1月から4月1日の3ヶ月間に約3%から最大約16%上昇しており、特に、基礎工事に使う仮設材の矢板やH形鋼のリース料金については、30%から45%上昇したこと
- 3、サッシや家具、客席など（刊行物に記載されていない製品等）の見積価格が上昇したこと

要因である労務単価や資材単価の増などは、文化会館の工事に限らず、本市の建設工事全体に及ぶものでもあり、全国的な傾向になっています。また、これらの背景には、東日本大震災の復興需要や、技能労働者の減少に伴う労働市場の状況があります。

■設計の変更等について

公募型プロポーザル方式により設計業者を選定し、市民説明会や利用者懇談会、パブリックコメントなどを実施して、多くの市民の要望や意見を可能な限り反映させた設計であること、また、工期が遅れることは、本市の芸術文化活動にも大きく影響を及ぼすことから、設計の大幅な見直しは考えていません。

なお、実施設計にあたっては、コンクリート及び鉄骨、屋根形状の見直しや施設面積の縮小など、様々な角度から工事費削減に向けた検討を行っています。

■2回目の入札について

経費の抑制を図りつつ確実な発注と施工を確保するとともに、地元業者が工事に参加できるように、市外の建設業者も含む共同企業体による入札方式を検討しました。

■完成時期について

本体工事の完成時期（平成28年8月）に変更の予定はありません。

***（転載ここまで）

文化会館改築に関する市長の発言 及び 新政クラブ所属議員質問 (まとめ)

2014/6/27 本会議開会前の市長の発言と、新政クラブ所属議員の質問への答弁を合わせて報告します。6/25の入札不調を受けての緊急質問で、マスコミも大勢詰めかけていましたが、「想定内」の展開。設計変更しない理由、市民への説明責任の果たし方、増額した場合の財源など、市長が話しやすいようにパスを送った印象でした。

平成26年度入札結果 建築業

No	工事番号	入札日	工事名(委託業務名)	施工場所	完了予定日	入札方法	落札者	予定価格	落札価格
11	1000038	平成26年6月28日	鶴岡市文化会館改築工事	鶴岡市馬場町11番1	平成26年9月27日	-	不調	5,462,518,000	
10	1000037	平成26年6月19日	鶴岡市文化会館改築工事	鶴岡市馬場町11番1	平成26年9月31日	-	中止	5,462,246,000	

▼市民への説明責任

「芸術文化関係者と学校関係者へはしっかりと説明する」「市ホームページを通じて情報提供する」と。新文化会館について、私が市当局に対して抱いている決定的な違和感はこちらにあります。

《すべての市民のための文化会館》という視点が欠落しているのではないか。これまでの文化会館のメインユーザーであった芸術文化団体や学校関係者の意見を取り入れることは大切だが、新文化会館はもっと広範囲の市民が主体的に運営していくもの。これまでに無かった発想で、これまでに無かった客層を開拓し、市民で賑わうだけでなく、

市外からも多くの人を惹きつける交流拠点にしていかななくてはなりません。

▼完成時期

「平成28年度末(=2017年3月)の完成は難しくなった」「できるだけ早期に完成させるのが私の責任」と。「しかるべき時期になったら、責任を…」とほのめかす場面もありました。2013年10月の市長選は無投票当選だった現市長。2017年10月頃には市長選もある見込みですが、果たして？

▼設計変更しない理由

「文化エリアに調和した優れたデザインである」「機能・性能は、市民の要望を反映させている」「コストや施工性に配慮した変更は行なうが、コンセプトは変えない」「単純な四角い箱を望む声もあるのは承知しているが、地元業者が高度な建築に取り組むことを通して、若い職員・技術者の人材育成につなげてほしい」と。人材育成うんぬんは、初めて聞いた気がします。

▼予算を増額した場合の財源

総務部長から「平成25年までで半分程度の236億円しか執行していない合併特例債と、＜地域の元気＞交付金12.1億円を充てる。増額にあたっては臨時議会を招集し、承認を求める予定」と。従来通り。



新文化会館建設予定地

新文化会館のデザイン変更は議員 「現行の設計を諦め、極力シンプルで出直したほうが早く完成するのでは」という市民の声がある。その場合の設計期間・工期・事業費などはどうなる見通しか。管理運営実施計画策定への市民参加は、建設部長 設計と工事で最低4年半。事業費については、再度



田中 宏
議員



つるおか市議会だより
平成26年6月定例会号

の設計業務費が積み増しとなる他、工事費については変動が激しい要素が多く、想定は難しい。教育部長 7月に発足するアドバイザー会議の委員公募はしないが、市民ワークショップは行なう予定。パブリックコメントを経て、今年度中に策定する。

子どもの読書推進に一貫性を
議員 子どもたちの知性と情操面の成長を一貫性をもって支えるための「子ども読書活動推進計画」策定の体制と方針は、教育長 公募委員を含め、7月から来年3月までに計3回の会議を開催予定。鶴岡市内の小・中学校の優れた取り組みを広く共有し、現場の実状を踏まえて、一貫性のある計画にまとめたい。

山形DCと広域での観光振興は
議員 今回の山形DCにおける鶴岡・庄内の位置づけは、県境を越えた連携の現状と、広域での観光振興に向けた戦略は、
商工観光部長 過去の山形DCに比べ、今回は出羽三山や加茂水族館など庄内の存在感が増している。新潟県村上市や秋田県にかほ市などと広域で連携しての観光促進によって、日東道の整備も後押しする。

定例会報告

平成26年6月定例会を振り返ります。

なお、鶴岡市議会ホームページから、本会議の映像や会議録をご覧ください。

→ <http://www.city.tsuruoka.yamagata.jp/gikai/>

平成26年6月定例会・一般質問

◆テーマ

1. 新文化会館について
 - (1) 今後のスケジュールについて
 - (2) 設計者との契約について
 - (3) 管理運営について
2. 子どもの読書推進について
 - (1) 子ども読書活動推進計画の
策定体制について
 - (2) 図書館活用教育について
3. 山形DCについて
 - (1) 庄内地域としての取組みについて

1. 新文化会館について

■田中議員 総括質問および一般質問に対する答弁を通して、現行デザインでの建築を目指す市長の意気込みが伝わってきた。しかし、タブーを設けず、3度目の入札が不成立に終わるケースも想定しておくのが行政としての責任だと考える。「現行の設計を諦め、極力シンプルな設計で出直したほうが早く完成するのでは」という市民の声がある。その場合の設計期間・工期・事業費などはどうなる見通しか。

■建設部長 設計プロポーザルから始めることになり、設計者選定には少なくとも6ヶ月かかる。基本設計と実施設計に12ヶ月。工事に約3年。合計すると4年半～5年を要する。なお事業費については、再度の設計業務費が積み増しとなる他、2年先の社会情勢、労務単価、資材単価などの変動を予測することは困難であり、工事費を現段階で想定することはできない。

※参考 現在の設計については、基本設計および実施設計を2012/8/6～2013/9/30の約14ヶ月、1億2400万円（税込）で業務委託していました。

■田中議員 管理運営実施計画の策定体制とスケジュールは？ワークショップや委員の公募を通して市民の関心を高め、開かれた計画策定を目指す考えは？

■教育部長 7月にもアドバイザー会議を発足する。「管理運営計画」策定にも関わった専門家の他、市民から芸術文化関係の有識者数名で構成する予定。委員を公募する予定はない。市民ワークショップは行なう予定。パブリックコメントを経て、今年度中に策定する。

■田中議員 新文化会館は単なる文化施設ではなく、市内外から幅広い人々が集う交流拠点にならなければならない。そのために、管理運営実施計画には芸術文化関係だけでなく、まちづくりの視点からの市民意見も反映されるべきである。アドバイザー会議に、まちづくりに精通した市民も含めるよう求める。

※6/17 現在、新文化会館の改築工事の3度目の入札が公告されており、25日に成立するかどうか注目が集まっています。

市当局の答弁によれば「千席規模のホールを建設しようとする最低4年半はかかるため、現行の設計で進めるのが最短」と。実際の工事だけでなく、公告から議会承認を経て発注契約に至るプロセスにも時間がかかる、との説明でした。

事業費について、少なからぬ市民から挙がっている「シンプルな設計に変更すれば、最初の想定である45億円で建つのではないか」という疑問の声に対して、市当局はもっと具体的な踏み込んだ答弁で答える義務があったと考えます。

さて、「管理運営実施計画」は、今年3月に策定された管理運営計画に基づいて、より詳細な内容を定めるもの。現在はハード面ばかりに注目が集まっていますが、「新文化会館をどんな施設にしたのか」「鶴岡市の未来にとってどんな意味があるのか」を決めるのはソフトであり、管理運営実施計画は非常に大きな意味を持っています。

昨年行なわれた管理運営についての市民ワークショップでは、まちづくりや人材育成など、新文化会館の意義について多彩で興味深い意見が出ていました。下記リンクの「かわら版」にまとめられています。

皮肉なことに、工事発注の難航によって、かつてないほど新文化会館への市民の関心が高まっています。「ピンチはチャンス」という言葉がありますが、現在の危機を乗り越えれば、真に《市民の市民による市民のための文化会館》を創りあげていく好機になるのではないのでしょうか。25日の入札が成立したとしても、ハードの完成は2017年3月頃になる見通しです。開館までの3年近い時間が「文化的後退」にならないよう、運営方針や管理計画などのソフト面をしっかりと整備していかねばなりません。

2. 子どもの読書推進について

■田中議員 昨年度、市内の子どもと保護者6,000人以上に対して実施した読書アンケートの集計分析結果はどう公表されるか。計画の策定プロセスの発信についての考えは？

去る6月13日、衆議院本会議で「学校司書と呼ばれる学校図書館の職務に従事する職員を置くように努めなければならない」という学校図書館法の改正が可決された。多くの学校司書の奮闘にも支えられて積み重ねられてきた市内の小学校における優れた図書館活用教育を、中学校以上にも展開し、子供たちの知性と情操面の成長、情報リテラシーの習得などを一貫性をもって支援していくべきだ。子ども読書活動推進計画への反映は？

また、新しい朝陽四小の学校図書館の開館が5月上旬になった経緯は？

■教育長 市立図書館創立100周年に当たる平成27年度の策定に向け、本年5月に鶴岡市子ども読書活動推進委員会設置要綱を定め、この推進委員会において子ども読書活動推進計画を策定するとともに、計画に基づいた読書活動の推進を図っていく。策定委員は10名以内で、そのうち公募委員は2名以内で、市広報6月1日号や市ホームページで広く募集している。7月中には第1回目の会議を開催し、来年3月までに計3回の会議を開催する中で、推進計画をまとめる。計画策定にあたっては小・中・高の代表からも委員として参画していただき、一貫性のある計画にしていきたい。

新・朝陽四小は朝陽第四小学校、湯田川小学校、田川小学校の3校が統合して今年4月に開校し、学校図書館は5月の連休明けに開館した。統合前の朝陽四小図書館が4月20日頃に開館していたこ

とに比べれば、2週間ほど遅い。しかし3校の図書館を統合するための準備作業は膨大で、教職員だけでなく、読み聞かせボランティアの方々や市立図書館からの図書館業務支援員の派遣など地域の協力によって、当初の予定よりは早く開館できたと評価している。

3. 山形DCを生かした観光振興について

■田中議員 県内のJRは内陸は仙台支社、遊佐は秋田支社、羽越線は新潟支社と管轄が分かっている複雑な状況。しかし今回の山形デスティネーションキャンペーン(DC)では、鶴岡・庄内の位置づけが過去5回と比べて格段に上がっている。過去の山形DCの内陸偏重から今回改善された点、今後に向けての課題は？

今回、新潟DCと山形DCが4月から9月という半年も続き、新潟県の下越地域から秋田県にかほ市あたりまでの広域の観光エリアのPR効果は絶大。県境を越えた連携の現状と、今後の観光振興戦略は？

■商工観光部長 県全域によるDCは平成16年以来10年ぶり、通算で6回目。山形県全域でのDCはJR仙台支社が所管するのが通例で、過去のDCでは内陸偏重の指摘もあった。今回のDCでは仙台支社と新潟支社の連携、本市からの働きかけも効を奏し、出羽三山と加茂水族館がテレビCMや大型ポスター、パンフレットなどで大きく取り上げられている。

DC後の観光のポイントは、新潟圏・仙台圏などからのリピーター獲得と、新潟県・秋田県など隣接地域との広域観光圏の推進、コンベンションに代表される「MICE」と呼ばれるビジネスイベントの誘致、そして海外からのインバウンド旅行者の取り込みなど。

「日本海きらきら羽越観光圏推進協議会」は庄内の2市3町と新潟県村上市、関川村、粟島浦村、秋田県にかほ市、戸沢村の計10市町村で構成されている。4月～6月の新潟DC、6月14日から始まった山形DC、10月には秋田県のポストDCと連動した日本海美人紀行などの事業により、関係市町村間の連携を深め、秋田・庄内・新潟間の人的往来が増えていくことで、日東道の整備促進にも繋がることを期待している。

意見書請願・賛成討論

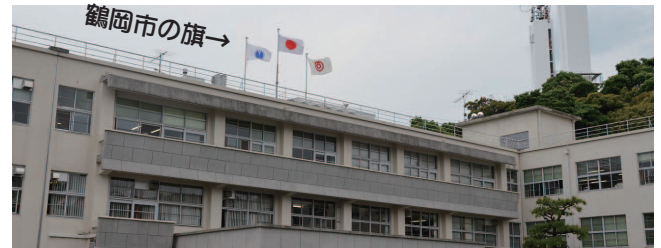
》》集团的自衛権と憲法解釈

集团的自衛権の行使容認をめぐる情勢は、まさに風雲急を告げています。本日 2014/6/30 の鶴岡市議会本会議では【集团的自衛権の行使容認に反対する意見書】が審議されました。私も「解釈改憲の是非」に絞って賛成討論を行いました。残念ながら否決されました。

反対討論は政友公明クラブと自民党系の新政クラブから。特に前者は湾岸戦争を例にとり、戦場で血を流せる普通の国を目指すべき、とも受け取れる過激な論調でしたが、同じ会派に属する公明党は「平和の党」を掲げているはず。強い違和感を覚えました。

▼賛成 無会派
解釈改憲の論点から賛成討論を行う。行使容認という目的と解釈改憲という手段、これを切り離して考え、議論していく必要がある。解釈改憲については方法の問題である。国民の関心が高まっている今こそ、集团的自衛権のあり方、外交・国防のあり方と自衛隊の役割・位置づけなどの議論を正々堂々と行っていくべきだと考える。その点において、今回の閣議決定による、一内閣だけの憲法解釈変更で集团的自衛権を行使容認するというあり方には、反対である。今回の問題を認めることは、将来的に、議論をしないでその時の内閣の暴走を抑止できなかった我々国民の責任となると考える。

一週間、山口市役所に鶴岡市の市旗が掲揚されました（写真左）。山口市の皆さん、これを機会に交流を深めていきましょう！



行政と市民の連携、市役所内の部署を超えた連携 etc. さまざまな要素がうまく繋がってこそ、参加率を上げることができます。自治体にとって単なるスポーツイベントを超えた、大きな「チャレンジ」なのです。



2回目ということもあって、町内会・企業・学校などへの呼びかけはそれなりに進んでいます。しかし、赤ちゃん連れのママさんにはなかなか伝わっていない模様でした。そこで「子ども家庭支援センター」と「まんまルーム」とのコラボで、音楽と運動を組み合わせた親子ふれあいイベントを仕掛けることにしました。

両施設のスタッフさんが、快くPRにもご協力くださいました。感謝！

当日は、青いサポーターズTシャツ姿で参戦しました。ご参加くださった大勢の子ども達&保護者さんと共にチャレンジデーに参加し、見事勝利できたことを喜び合いたいと思います！



ブログ ツイッター フェイスブック
BLOG / twitter / Facebook での情報発信も！

<http://tanaka-tsuruoka.net/>
http://twitter.com/tanaka_hiroshi
<http://www.facebook.com/tanaka.officefon>

コラム

住民参加型スポーツイベント《チャレンジデー》勝利！

《チャレンジデー》、ご存知ですか？！
毎年5月の最終水曜日、世界中で行われる住民参加型のスポーツ交流イベントです。人口規模がほぼ同じ自治体同士が15分間以上継続して何かの運動をした住民の『参加率(%)』を競い合うもの。
日本全国で2,053,284人もの人々が参加。今年は鶴岡市を含めて118自治体がエントリーしました。山形県からは鶴岡市だけ。
ちなみに初参加だった昨年、鶴岡市が28,199人で参加率20.7%、木更津市が73,548人で参加率55.9%とボロ負けでした。
しかし、今回は参加率47.0%で見事鶴岡市の勝利です♪ 63197人もの方々の「15分間」の汗が、大きな果実となりました。
山口市も前回より1万2千人も増えたのこと。健闘を称えましょう！